ふくりゅう

発行所　日本下水文化研究会運営委員会
発行責任者　谷口尚弘（運営委員会副代表）
発行年月日　平成８年１２月１日
印刷所　(株)愛甲社
編集　小松建司　新澤紀明
秋号（通巻６号）

三大地震写真展無事終了

平成8年7月17日から小平市「ふれあい下水道館」で行われていた「三大地震と人々の暮らし」写真展は無事10月16日をもって終了いたしました。

この三ヶ月間の「ふれあい下水道館」への入場者総数は、7,075人に達しています。

入場された方から地震展へのご意見がいくつか寄せられていますのでご紹介します。

○地震時の「下水道の効用」についての説明がほしい。

○濃尾地震の時期、規模、死傷者数等の説明がほしい。

○地震展の古い資料は珍しいが、現在のものはもう少し　展示数を増やしてもよいのではないか。

○特別展示室がおもしろかった。

○地震展についてすごく興味を持ってみることができた。

等でした。

特別展示「三大地震と人々の暮らし」の写真展は大成功の内終了しました。ここで使われたパネルは、小平市で保管されていますので、展示等の企画があれば貸し出して頂けるそうです。

また、小平市の松井部長からは、当会に対して、お礼状が届き、その中に、「ふれあい下水道館」が建設大臣から表彰を受けられたことが書いてありました。

関西支部活動報告

貴重な問題提起の場になった現代水環境セミナー

本会関西支部が9月6日、大阪市梅田の東急インで全国上下水道コンサルタント協会関西支部及び水道事業活性化懇話会と協同開催した現代水環境セミナーには約90名（本会関係者は35名）が参加しました。講演内容は、次の通りでした。

○写真に見る三大震災と立ち上がる人々
　・・・稲場紀久雄（本会代表）

○環境基本計画と環境管理監査制度の動向
　・・・山中芳夫（大阪学院大教授）

○琵琶湖を巡る最近の政策動向
　・・・中村正久（琵琶湖研究所長）

○水道環境行政を巡る最近の動向
　・・・坂本弘道（厚生省水道環境部長）

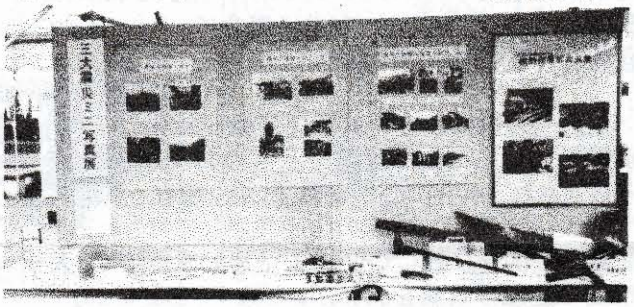
いずれの講演内容も単なるハードの施設整備の時代から、ソフトとハードの両方を視野に収めた新しい対応の必要性を示唆するもので、出席者に深い感銘を与えるものでした。新しい時代が確実に始まっていることが実感されました。　（蓼倉虫a）

恒例の大阪府下水道フェスティバルに出展

恒例の大阪府下水道フェスティバルは、9月7日東大阪市の川俣処理場の覆蓋広場で開催されました。関係都市や下水道組合が魚掬い、ミニ・ゴルフ、昆虫標本展示、ミニSL、ソーラー・カー等々それぞれ楽しい催しを競いました。本会関西支部は、例年の展示に加え、三大震災ミニ写真展と自主防災組織に役立つ防災用具を展示し、かなりの注目を集めました。

恒例の紙芝居や折り紙遊び等も好評で、本会女性会員も大奮闘。見る人は、幼児と母親ばかりでしたが、少なくとも百人以上がしばらく足をとどめ、会場が一杯になることも何度かありました。今年も創作紙芝居『この世で一番怖いもの、なあに』と『水の神様のきらいなこと』を製作しましたが、小学校高学年向きのため、紙芝居のために来て下さった会員関係者に1回上演しただけでした。来年は、幼児向けを製作したいものですが、これは難題です。

本会展示コーナーに足をとどめた人達に可愛い絵入りテッシュとボールペンを記念に差し上げましたが、その数は千人近くになったと思われます。全体の入場者数は5千人位でしょうか。ともかく大変な賑わいでした。　（蓼倉虫a）



▲フェスタ風景

▼水環境セミナー

㈱水環境研究所　西田哲夫氏よりの葉書から

「下水文化研究八号」有り難うございました。山田国広先生の話といい、「ふくりゅう5号」酒井さんのお話といい、大仏開眼かと思っています。（以下略）

ルポ・運営委員会

第３回運営委員会は、１１月８日ｐｍ６時、例によって例の如く某所会議室で開催された。今回の議題は、

○地震写真展の報告（詳細別記事）○写真集の報告（詳細別記事）○定例研究会の実施について、○関西支部活動報告について、

等がありました。

今回は特に、この会も５年目を迎えて２１世紀に向かって今後どのような方向に進むべきなのかを検討する準備委員会の開催について話あい、その結果は総会という形で会員のみなさんにご報告できると思います。　　記　小松

写真集「三大地震と人々の暮らし」その後の状況

写真集「三大地震と人々の暮らし」は、当初1000部を印刷しましたが、その後の引き合いが多く、500部を増刷いたしましたので、お近くの方で欲しいという人がおりましたら連絡をください。

会員各位には、無料で配布したところですが、10月末現在で、会員の外に個人的に欲しい方や、会社、自治体からの引き合いがあり、470部が頒布されています。特に、阪神・淡路大震災に見舞われた関西地区では、地元の新聞に大きく取り上げられたこともあり、一般市民の方からのお便りが多数届いておりますので、一部（原文のまま）ご紹介をします

○「我が家も震災でつぶれ大変な被害にあった建築技術者です。日本人は、以前の経験を教訓に改善されていないのが、本当に残念で、そういった意味で、是非とも一冊おゆずり下さい。(96/8/30)

○8／24付けの神戸新聞で拝見しました。子供が甲南大学卒業生で東灘や三宮のお友達がたくさん被災され、本当に心が痛みました。現在、東加古川仮設住宅にもたくさんの方が生活しておられます。記録を子供達に残してやりたいと思いますので3大地震の記録写真集をおねがいします。(96/8/28)

○前略ご免下さい。新聞で拝見致しました。三大地震の記録写真集ご出版の由、大変な事と御推察致します。私も淡路島の北部にあり大変な被害を受けました。以来歩き廻って調査を続け記録にしています。私の住む尾崎地区も何人も犠牲者が出ました。復旧、復興と申しましてもまだまだです。修理もまだ出来ていないのが実情です。一部お分けいただきたいと思いお願い致します。(96/9/2)

○前略　過日（平成八年八月二四日付）神戸新聞紙上にて貴方により「明治・大正・現代三大地震と人々のくらし」の記録写真集が復刻・出版されたことを知り是非おわけいただきたくお願い申しあげます。当地もかなり復旧・復興の方向に向かいつつあります。小生も素人でありますが何か記録にとどめたいと色々集めております。

○八月二四日（土）の神戸新聞に「三大地震の記録写真集出版」の記事を読み昨年の阪神淡路大地震で家は全壊で生き埋めになりましたが十月末再建して帰って来ましたがあの時の事が忘れていきそうで何かの記録にと申し込みました。よろしくお願い致します。(96/8/28)

○東灘区で震度七を体験し、マンションは全壊となりました。小学生と園児の三人の子供を持つ親としては、今回被災したことを忘れないでいつの時代でも地震が起きれば同じような被害が起こる、ということを子供達に伝えて被害を最小限にするための努力を習慣化出来るように考えていきたいと思っています。(96/9/2)

○私も里（東灘区本山）と共に妹を失い、主人の事務所も全壊しもうそれは口にあらわすこともできないほどの一年半でございました。事務所は昨年十月に建ち里はこれから建てることになりました。よろしくおねがいいたします。(96/8/30)

まだまだたくさんのお便りがあるのですが、紙面の都合上割愛させていただきます。このように、今回の地震の被災された方からの希望が大変多かったことがめだちます。改めて、被災され亡くなった方々のご冥福をお祈り申し上げます。

また、このように多くの人から喜んでいただける写真集を出版出来たことは、発行するまでの時間的余裕がなく、勤務を終えて子供達が寝た22時頃から夜中の2時、3時までかかった編集の苦しかった事もみな吹き飛んでしまいました。　　（建）

マスコミ情報

濃尾・関東・阪神大震災

記録写真まとめ出版

新刊紹介

三大地震と人々の暮らし

濃尾，関東，阪神・淡路大震災

2,000円　パルトンの震災写真収載

日本下水文化研究会（代表＝稲垣紀久雄・大阪産業大学教授）は、このほど濃尾地震、関東大震災、阪神・淡路大震災の3つの震災被害と被災住民の生活をテーマに写真集『三大地震と人々の暮らし』を発行した。A4判、135頁で、同文化研究会の設立5周年を記念して企画・発刊した。希望者に実費頒布している。

写真集にはわが国に衛生工学を伝えた英国人技師、パルトンが、濃尾地震を工学技術者の視点で見事にとらえた105年前の貴重な写真30枚を収録。様々な支援や活動から選別した関東大震災の写真も44枚収められている。

写真家としても知られていたパルトンは、濃尾地震が被災直後、汽車と人力車などを乗り継いで現場により、現地をつぶさに回り被災者の状況、倒壊した構造物の模様などをカメラに収めた。被災断層の写真は日本初の断層写真として有名で、濃尾地震を特徴づける記録として数々の文献にも利用されている。

濃尾地震は明治24年10月28日午前6時37分頃、岐阜、愛知県を襲い、死者7,200人、負傷者17,000人、全壊家屋約14万戸と、阪神・淡路大震災に匹敵する被害を生んだマグニチュード8の巨大地震であった。

パルトンの撮られた30枚の濃尾地震の写真は、英国の地質学者J．ミルンの地震に関する論文をつけて英国向けに『ザ・グレート アースクエイク オブ ジャパン1891』として出版された。

このパルトンの写真集は、わが国には東京大学図書館などに3種現存していることが知られているが、そのうち1種を京都在住のパルトンの子孫・島藤幸子さんが保管していた。

下水文化研究会が発行した三大地震の写真集には パルトンの写した30枚を島藤さんの好意でそのまま原版するとともに、翻訳した写真の説明文も付し、当時の生々しい状況をそのまま復刻している。写真の構図、光の使い方、技術者、写真家としての鋭い感覚を覚えることができる。1枚1枚の写真に見られる地震の怖さしさ、住民の不安の姿は、100年余の時間を超えて今日の阪神大震災にも重ね合わせることができる。

購入問合わせ先　日本上下水道設計㈱内
佐野康一　03(3369)9919　価格2,000円(送料300円)

下水文化研究（第8号）

1,400円（千円）　水の文化論を掲載

水に関する文化の勉強、継承などの活動を続けている日本下水文化研究会の機関誌である。幅広い論文、報文が収載されている。

【申込先】東京都流域下水道・荒川処理場勤務　原田
☎ 0425（91）9797

下水文化研究（第9号）

・第3回下水文化研究発表会特別講演
「時代を映す都市河川」岡井博之
「小平市『ふれあい下水道館』建設の経緯」桜田紘正
「京都研究会」講演
「イギリスの上下水道事情」齋藤博康
「いき、下水道料金を考える」石田雅弘
「第9下水道広域勉強会（仮称）の模様」稲垣紀久雄
「水環境と下水道」山田国広
「阪神・淡路大震災時における市民生活と今後の上下水道のあり方」藤久裕雄

下水道の文化、歴史を保全、継承へ

清流の復活、施設保存

来年度から モデル事業

建設省 21世紀に向け文化創造

下水道法100年 に博物館を

お知らせ

水とくらし　企画展

千川上水の三百年

という企画展が開催されています。

○板橋区立郷土資料館
平成8年9月21日～10月20日まで
○練馬区郷土資料室
平成8年11月1日～11月14日まで

以上の二カ所についてはすでに終了していますが次の所ではまだ間に合いますので、興味のある方は是非ご覧下さい。

○豊島区立郷土資料館
tel　03(3980)2351
平成8年11月24日～12月15日まで

催しのお知らせ

横浜開港資料館では平成8年10月30日から平成9年2月2日まで『石鹸工業の創始者・堤磯右衛門の生涯』という特別展を行っています。石鹸は、私達の生活に無くてはならない必需品です。下水文化の観点から見ると、石鹸は使われた後、排水と共に下水道に流され、処理場に入ってきます。だから下水文化という視点からも石鹸の歴史を知っておくことは有意義ではないか、と思います。会員の皆様に是非ご覧いただきたいと思い、ご案内致します。

（蓼倉虫a）

下水道博物館と下水文化

「コープとうきょう」が発行している『DUO〈デエオ〉』10月号の“私の街のとっておきスポット”欄に、小平市の「ふれあい下水道館」が紹介されていました。

投稿者は同館の展示について触れたあと、こう言っています。

『汚いものにフタをして、ただ漠然と生活排水を流しているのではなく、下水のシステムや問題（環境汚染や水資源の大切さ）を認識して、個人でもできるレベルから実行しようという気にさせてくれる所です』。

下水道博物館が、ひとりひとりに下水文化の重要性を認識させる場になっていることを、嬉しく思いました。

《く》

『水とくらし』、第6号発行される！

水とくらしを考える下水道の会』が機関紙・『水とくらし』の第6号を11月に発行した。事務局は、山形市下水道部管理課に置かれている。鶴岡支部をはじめ県内に幾つかの支部もある。この会は、名前が示すように下水道を通して水を守り暮らしをより良くしょう、というユニークなボランティア団体である。会長は、阿部康子さんという素晴らしい方で、この方を中心に環境問題に感心の深い女性が結集し、地道な努力をもう6年以上も続けている。この会が市と市民を繋ぐ掛け橋の役割を果たしていることも重要だ。機関紙を見て、改めて隠された努力の跡を痛感させられた。阿部会長はじめ会員の方々の更なる活躍に声援を送りたい。また、本会との一層の連携強化を期待したい気持ちで一杯だ。お問合わせは山形市の事務局へ。

（文責・稲場）

糞尿始末記

この九月に文春文庫から「江戸こぼれ話」という本が出ました。

これまでに、江戸についての話が書かれた本の中から、いくつかの作品を選んで編集されたものです。

その中に、ちょっと面白いものがありましたので、ご紹介します。

①神坂次郎氏の「紀州藩勤番侍医の江戸見物記」という作品のなかに、『江戸自慢』という江戸時代の随筆が引用されていまして、そこにこんな記事がありました。

『御府内ハ言ニ不及、村落たりとも小便桶なく、大道へたれ流しなり。又糞取を見しに、厠中の糞塊のみすくひ取て、小便は残し置て汲取らず、如何なる故と考るに、四里四方の中に人家立つみて糞多ければ、取尽すに暇なきならむ。市中に干鰯屋（肥料店）のなき二而糞の余るを知るべし』

②渡辺善次郎氏の「食もいなせな江戸っ子気質」という作品に、次のような記述がありました。

『トイレの屎尿も近郊農家に売った。大人一人の下肥代が年間で大根五十本、茄子五十個と交換された』

江戸川柳に「江戸を見よ小便などはたれ流し」というのがありましたが、『江戸自慢』によりますと、やはり江戸では小便は「たれ流し」されていたようです。いま、八百屋の店先を覗いてみましたら、大根が一本一五〇円位でした。茄子は五個位で一袋が二五〇円位でした。大人一人分の肥代が年間で一万円？

《く》

お知らせ

◎　会員のみなさまにお知らせいたします。この「ふくりゅう」を送りました封筒の宛名の所の下に、下記のように番号が記載されていると思いますが、これは会員番号として一人一人につけたものです。

会費の納入時とかに記載して頂ければ幸いかと思います。

例えば私の場合は
〒267　千葉市緑区土気町1580-66
小松建司
100098

◎会員のみなさまには、ご多忙中の処、早期の会費納入有り難うございます。

ところで、会費納入を失念されている方がおられますので行き違いに成りましたら失礼とは思いますが、12月末に請求させていただきます。

ふくりゅうでは原稿募集をしています
どんなに小さいことでも結構です。身近な話題を送って下さい。
〒267　千葉市緑区土気町1580-66
小松建司まで

編集後記

ある雑誌を読んでいたら、岐阜県蛭川村に、全部石で出来たトイレがあると書いてあった。それも御影石だそうだ。そこは、博物館で「博石棺」というらしい。その中に、トイレにまつわる資料を展示する「うん畜館」なるものがあるらしい。どなたかお近くにお住いか、見に行かれた方があったら、「ふくりゅう」に是非紹介して欲しいと思います。

（建）